

地歴公民科「日本史研究」授業実践紹介

授業者：大森 雄介
学 年：3年次
単元名：Ⅲ大正・昭和前期

本時のねらい

第二次世界大戦下の社会の様子を理解し、政府の動向が国民の生活に大きく影響を及ぼすことを理解する。

授業の流れ

①神風特攻隊員がどのような気持ちで遺書を書いたのか考える。



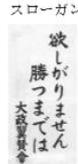
②当時の国民生活について資料をもとに考える。



エ、軍事訓練の様子



オ、町に掲げられた



③国家総動員法について理解し、なぜそのような法令が制定されたのか考える。



④当時の政府が軍部中心であったことを理解する。



⑤第二次世界大戦下、なぜ日本は国民を動員した総力戦をおこなうことができたのか論述する。

授業のルーブリック（授業の流れ ⑤の部分）

評価基準

S 評価…A 評価に加え、現代との比較もふまえて説明できている。

A 評価…「政府の動向」と「国民の生活」のつながりに着目し、具体的に説明できている。

B 評価…具体例を挙げて説明できている。

C 評価…説明できている。

評価なし…何も書いていない。

単元を通して身につけてほしいこと

- ・戦時下の国民生活がなぜ形成されたのかという問いに対し、ただ「戦時中だったから」という言葉で片づけてしまうのではなく、具体的な背景を踏まえて説明できる力
- ・政治の動向が国民の生活に大きく影響を与えるということを改めて理解し、そして歴史の学びを通して、現代の政治・社会の動きにも意識を向けていく力
- ・専門語句を使いながら、自身の考えを表現できる力

実践の背景

- 第二次世界大戦下の国民生活を取り上げる。この部分では、国民生活がどのようなものであったかという事象の理解で留まりがちだが、なぜ国民を巻き込んだ総力戦が起きてしまったのかという社会全体の流れを踏まえた広い視点で生徒が理解できるようにしていきたい。

授業改善のアプローチ

- 具体的には、国民を巻き込んだ総力戦を日本がなぜ展開することが出来たのかということ、当時の法令・政府の特徴をふまえ生徒に理解させる。
 - 「戦時下、国民はどのように戦争に参加したのか。」
 - 「なぜ神風特攻隊のように国民は命を投げ捨ててでも戦争に参加したのか。」
 - 「当時の国民生活はどのようなものであったか」
 - 「当時の法律はどのようなものがあつたのか。」
 - 「その法律を制定した政府はどのようなものであつたのか。」これらの項目を軸に授業を展開し、政治の動向が国民の生活に大きく影響を与えるということを改めて生徒に学ばせる。そして歴史の学びを通して、現代の政治・社会の動きにも意識を向けていく力を養うことも目的とする。

単元のヤマ場となる授業場面

単元の構成

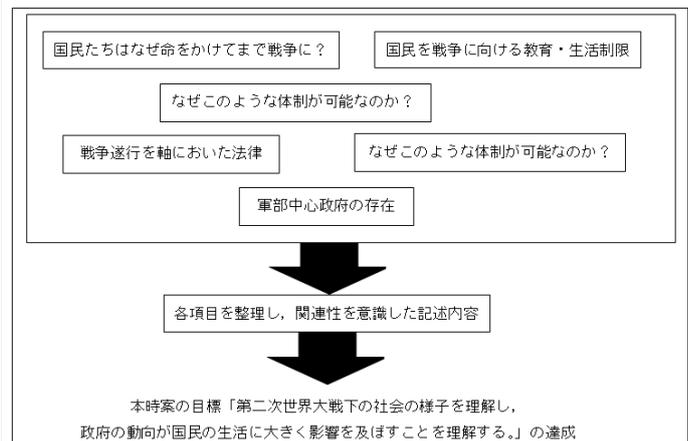
Ⅲ戦後

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1. 日米安保体制と自衛隊・・・5時間 | 4. 戦後の日中関係・・・5時間 |
| 2. 55年体制・・・5時間 | 5. 課題研究・・・6時間（本時） |
| 3. 高度経済成長と国民・・・5時間 | |

パフォーマンス課題

第二次世界大戦下、なぜ日本は国民を動員した総力戦をおこなうことができたのか説明しなさい

上記の発問を生徒に投げかけ、ワークシートに記述させる。その際、国民生活、その背景である政府の動向までを視野に入れて説明をさせる。この活動を通して、「政府の動向が国民の生活に大きく影響を及ぼす」ということを改めて生徒自身の中に落とし込める。



評価

次の3点で今学期（1学期）の評点とした。

- ①パフォーマンス課題に対する評価
- ②毎授業のプリントへの取り組み評価
- ③定期考査による評価